

自己評価報告書

平成23年5月13日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2012

課題番号：20530570

研究課題名(和文) 異文化間ソーシャルスキル学習の実験的セッションに関する応用社会心理学的研究

研究課題名(英文) Applied Psychological study about experimental session for cross-cultural social skills learning.

研究代表者

田中 共子(TANAKA TOMOKO)

岡山大学・大学院社会文化科学研究科・教授

研究者番号：40227153

研究分野：異文化間心理学

科研費の分科・細目：心理学・社会心理学

キーワード：異文化間ソーシャルスキル ソーシャルスキル ソーシャルスキル学習 在日留学生 実験的セッション 異文化適応 異文化間教育 文化学習

1. 研究計画の概要

異文化滞在者を対象に、異文化圏での対人関係に必要な、社会的技能(ソーシャルスキル)を学習する実験的セッションを行う。異文化間の対人関係形成が促進される効果を介入実験によって確認し、異文化間ソーシャルスキルが社会文化的適応を促進するとの仮説を検証する。「異文化間ソーシャルスキル学習の実験的セッション」の構成を吟味し、具体的な検討課題を解決しながら、セッションの洗練を図る。質問紙調査および面接調査を行って、ソーシャルスキルの内容と実施過程を精緻化していく。質的、量的手法を併せた統合研究の手法を駆使して、「異文化間ソーシャルスキルの獲得による適応促進の機序」の解明を目指す。異文化適応理論の進展を図り、国際化時代における異文化滞在者の新たな適応援助策の創出を狙った、応用社会心理学的研究である。

2. 研究の進捗状況

(1)実験的セッションの実施 AUC-GS学習モデルに基づき、異文化間ソーシャルスキルのセッションを実施し、セッションでの反

応を測定した。同じ内容構成で実施を繰り返して例数を蓄積している。日本語が堪能な学生は文化的解読に興味を示し、来日間もない学生では不安の低減が認められた。(2)セッション効果のフォローアップ調査 学習したソーシャルスキルの現実場面での使用状況と、セッションの有用性の評価について、日本滞在中が続いている学習者を対象に、記述式質問紙による調査を行った。学校場面のスキルは実施機会が多いが、飲食など社会的場面は機会を持たないケースも見られた。文化的に理解する姿勢が取り入れられ、スキル学習に興味深いと捉えていた。(3)在日留学生のソーシャルスキルの実施状況に関する質問紙調査 母文化とのスキルの類似性はパフォーマンスにあまり影響せず、容易さや使用しやすさの影響が大きい。(4)在日外国人留学生の友人形成のソーシャルスキル調査 中国人留学生を対象に、事例的検討を行った。対人的な接近のスキルに文化差があり、関係開始に困難があった。(5)日本人学生における在日外国人留学生との友人形成過程 在日留学生と交流のある日本人大学生に面接調査を行い、友人形

成の過程を探索した。イベント、日常生活の共有、支援役割の三種類の導入ポイントがあり、関係開始のスキルは多様だが、関係の維持・深化スキルは類似していた。(6)間接表現をめぐる異文化間ソーシャルスキルの調査と学習セッション 異文化間ソーシャルスキルのうち、特に在日留学生が困難を覚えがちで学習ニーズの高い間接表現に特化したセッションを開発した。調査によって間接表現への認知を整理してから、個人対象型セッションを実施した。パフォーマンス、異文化接触への動機付け、文化的理解の向上がみられた。

3. 現在までの達成度

「②おおむね順調に進展している。」

4. 今後の研究の推進方策

セッション実施例を蓄積し、数量的な分析ができるようにする。セッションのバリエーションを試し、効果を測定する。セッションのフォローアップを行い、スキルの般化と適応への影響を調べる。日本人学生対象の調査を行い、彼らの実施水準と留学生への要求水準を確かめる。留学生によるスキルの実施と認知をもとに文化間距離を測定し、個人レベルと集団レベルの行動の文化差を数値化する。行動的文化間距離と、セッションの効果との関連を調べる。

5. 代表的な研究成果

[雑誌論文] (計5件)

① 田中共子 2010 異文化適応とソーシャルスキル 日本語教育, 146, 61-75 ② 田中共子 2009 多文化社会に心理学はどう貢献できるかー日本の課題 文化共生学研究8, 21-28 ③ 中島美奈子・田中共子 2008 異文化交流における日本人学生のソーシャルスキルー在日外国人留学生との交流の要領に関する分析ー 留学生教育, 13, 63-72 ④ Minako Nakashima and Tomoko Tanaka 2008 Social Skills on the Formation of Personal

Relations between International Students in Japan and Japanese. 社会文化科学研究科紀要, 26, 45-59 ⑤ 田中共子 2008 AUC-GS学習モデルに基づく異文化間教育の試み 文化共生学研究, 6, 125-135

[学会発表] (計9件)

① Tomoko Tanaka 2010.8.30 Response to the psycho-educational session depend on the AUC-GS learning model for cross-cultural adjustment. The 4th Asian Congress of Health Psychology, Taipei, Taiwan ② Tomoko Tanaka 2010.7.16 Experimental group session for cross-cultural social skills learning for international students in Japan from the social-clinical psychological perspective. 27th International Congress of Applied

Psychology, Melbourne, Australia ③ 田中共子 2009.10.12 異文化間ソーシャルスキル学習の長期的効果：在日留学生における一年後のフォローアップ 日本社会心理学会・日本グループダイナミクス学会 於大阪大学

④ 中島美奈子・田中共子 2008.11.3 ソーシャルスキル教育を取り入れた文化学習の心理教育的セッションーAUC-GS学習モデルの構成単位ごとにみた参加者の反応ー 日本社会心理学会 於かごしま県民交流センター

⑤ 田中共子 2008.8.21 シンポジウム「多文化・多民族時代に備えて心理学的な観点からの課題と見直し」 多文化社会に心理学はどう貢献できるか：日本の課題 韓国心理学会 於陸軍士官学校・ソウル

[図書] (計2件)

① 田中共子 2010 社会科の心理学／ハンドブック 菊池章夫編「異文化間ソーシャルスキル学習」383-396 川島書店 ② 田中共子 2009 社会心理学事典 日本社会心理学会編「異文化適応」 丸善株式会社